

メデイカル最前線を支える銅配管 東京女子医科大学付属第二病院(仮称)



若き女医・吉岡彌生の夢は大きく花開いた。

明治初年静岡県に漢方医の娘として生まれた彌生は、女医をめざし済生学舎に入学。二十六の時、東京・飯田町に「東京至誠医院」を開院した。一九〇〇年には現在の東京女子医科大学の前身である「東京女子学校」を創立、以来、女性の地位向上をめざしてさまざまな活動をくり広げた。最近、同大学は、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム(COLE)」と「二十一世紀COEプログラム」とともに採択され、世界水準をめざす大学として脚光を浴びている。

同大学の付属第二病院(仮称)が東京都荒川区にこの三月完成した。

この第二病院は、地上六階、地下二階、ベッド数三三三〇の規模を有しており、施

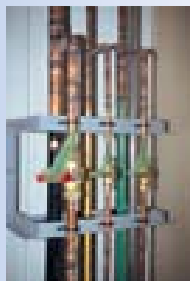
工性、経済性、トータルでの信頼性などの理由から、銅管が大量に使用された。

給湯配管については、二〇〇〜一〇〇ミリ、医療ガス配管は、八〜八〇ミリが採用されている。

ここで注目されているのが、給湯配管に米国防総省(ペンタゴン)で採用されたというカシメ式の機械式継手を使用していること、専用の工具を使い、わずかな秒のプレスで銅管と継手を二重カシメするため、信頼性の高い接合部が得られると高い評価を得た。

最先端の医療現場で、最近、「抗菌力」をはじめ、銅管のもつすぐれた特性が目され、採用がふえているが、いま、吉岡彌生の夢が銅管により、さらに大きく膨らんでいくのである。

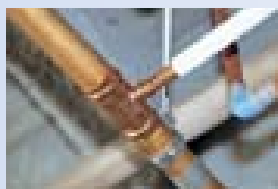
医療ガス配管



給湯配管



機械式継手



機械式継手

